

日本油化学会 規格試験法委員会ホームページ

規格試験法委員会は、油脂及び関連分野の分析試験法の統一化を図るため、基準油脂分析試験法の制定、改廃、刊行を行う組織です。また、分析試験法の解説や新規分析試験法の紹介のためのセミナーを開催しています。

新着情報

平成 28 年度規格試験法委員会の組織・構成

平成 27 年度活動・分析試験法セミナーの記録

基準油脂分析試験法 2013 年版(第1刷)正誤表

連絡先

新着情報 :

・基準油脂分析試験法 2013 年版の第 2 刷刊行:

平成 27 年 11 月に、基準油脂分析試験法 2013 年版(第 2 刷)が刊行されました。

収載する試験項目数は 2013 年版(第 1 刷)と変わりませんが、基準油脂分析試験法 2013 年版(第 1 刷)の誤植や用語・表現などを修正しました。

・英文版基準油脂分析試験法 2013 年版第 2 刷 CD 刊行:

国際化への対応として 2009 年から刊行している抜粋英訳版については、基準油脂分析試験法 2013 年版の増刷に際して、さらに推奨法 7 試験項目を追加しました。全収載試験法は、44 基準法、3 参考法、7 推奨法です。増刷版付属の CD をご利用ください。

<2013 年版第 1 刷の主な修正箇所は、当サイト後出の正誤表をご参照ください。>

・第 16 回基準油脂分析試験法セミナーの開催(予告):

分析試験法の解説や新規分析試験法の紹介を行います。

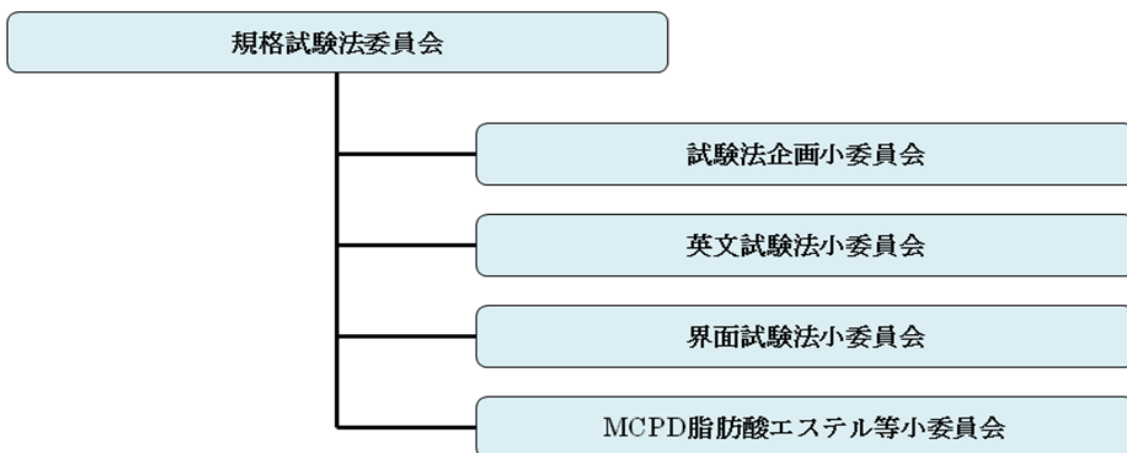
日時:平成 28 年 11 月 24 日(木)25 日(金)、会場:油脂工業会館 9 階会議室

<第 15 回基準油脂分析試験法セミナーの開催報告は当サイト後出記事をご参照ください。>

規格試験法委員会の組織・構成:

平成 28 年度規格試験法委員会メンバー

委員長	山岡 正和	(国)産業技術総合研究所
副委員長	遠藤 泰志	東京工科大学
	平田 芳明	(一財)日本水産油脂協会
委員	朝倉 浩一	慶應義塾大学
	大島 広行	東京理科大学
	神山 和夫	ハウス食品グループ本社(株)
	佐藤 知栄実	日清オイリオ(株)
	佐藤 俊郎	(株)J-オイルミルズ
	重松 康彦	キューピー(株)
	生田 啓一	(一社)日本油料検定協会
	根津 亨	(株)ADEKA
	秦 真理子	(公財)日本油脂検査協会
	原 節子	成蹊大学
	町田 芳章	町田MSコンサルティング
	渡辺 嘉	(地独)大阪市立工業研究所



規格試験法委員会の平成 27 年度活動:

規格試験法委員会(委員長 山岡 正和)

委員会を 4 回開催した。また下部組織として試験法企画小委員会、英文試験法小委員会、及び合同実験のための MD/DG、2 位置脂肪酸、MCPD 脂肪酸エステル等各小委員会を運営した。基準油脂分析試験法の広報普及活動の一環として第 15 回基準油脂分析試験法セミナー(実行委員長:佐藤知栄実)を油脂工業会館において 11 月に開催した。基準油脂分析試験法 2013 年版の第 2 刷及び英文試験法 2013 年版第 2 刷 CD を刊行した。

試験法企画小委員会(主務 重松 康彦)

委員会を4回開催した。「基準油脂分析試験法 2013 年版」の第 2 刷の印刷に際し、明らかな誤字脱字等の修正を実施した。2018 年に増補改定することを念頭に、2013 年版の見直しを H26 年度から継続して行っている。また、新規に収載予定の試験法(4試験法)について各試験法小委員会と連携して具体的な試験法案の詰めを行っている。

英文試験法小委員会(主務 朝倉 浩一)

委員会を 1 回開催した。基準油脂分析試験法増刷に合わせた英文試験法 CD 増刷において、推奨法7項目を新たに追加することとした。

界面試験法小委員会(主務 大島 広行)

界面活性剤に関する ISO/TC91(大島主務が議長の国際会議)が平成 27 年 7 月 1-3 日にベルリンにおいて開催された。三つのワーキンググループ(WG)の分科会と総会が開かれた。初日の 7 月 1 日午後には昨年発足した WG3 (Bio-surfactants)、2 日目の 7 月 2 日午前には WG1 (Analytical methods)、2 日午後には WG2 (Microbiology) の各分科会が開催され、最終日の 7 月 3 日午前に総会が開かれた。WG3 についてはその後電話会議が開催されている。次の会議は平成 28 年 8 月に米国で開催 予定である。

モノアシルグリセリン・ジアシルグリセリン(キャピラリーGC法)小委員会(主務 後藤 浩文)

単一試験室での精度を確認するとともに、対応する AOCS Official Method Cd 11b-91 と比較検討した内容を JOS に投稿し基準油脂分析試験法に推奨法などとして掲載することについて検討中である。

2位置脂肪酸組成小委員会(主務 渡辺 嘉)

トリアシルグリセロールの2位脂肪酸組成を測定する新規酵素法のテキストを作成して、試験法企画小委員会に審議を諮り、必要な改定を加えた。

MCPD 脂肪酸エステル等小委員会(主務 神山 和夫)

本分析法は、MCPD 脂肪酸エステル、グリシジル脂肪酸エステルを酵素分解し、遊離型成分の誘導體物を GC/MS で測定する方法であり、AOCS 法(間接法)に比べて簡便かつ迅速である。平成 27 年度は合同試験を完了し、論文を投稿した。基準油脂分析試験法の文案を作成中である。

平成 27 年度開催 第 15 回基準油脂分析試験法セミナーの記録:

第 15 回基準油脂分析試験法セミナーに多数ご参加いただき有難うございます。

開催日程、演題、講師は以下の通りです。

ー油脂や油脂に含まれる成分の基本的な分析や構造を理解するー

日 時 :平成 27 年 11 月 26 日(木)10:00~16:30, 11 月 27 日(金)10:00~15:25

会 場 :油脂工業会館 (東京都中央区日本橋 3-13-11)

プログラム(演題と講師《敬称略》)

1 日目 11 月 26 日(木)

1. 理化学試験における精度管理 杉本 敏明((一財)日本食品分析センター)
2. 油脂結晶の結晶学 本同 宏成(広島大学大学院生物圏科学研究科)
3. 油脂の酸化劣化とその評価法 原 節子(成蹊大学理工学部)
4. 油脂の加熱劣化と評価法 遠藤 泰志(東京工科大学応用生物学部)
5. 固相抽出の原理と使用上のコツ 佐々木 俊哉(日本ウォーターズ株式会社)

2 日目 11 月 27 日(金)

6. LC-CAD(荷電化粒子検出器)の特長と油脂分析例
福島 景子
(サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社)
7. LC-MS を用いたリン脂質の分析法 板橋 豊(北海道大学名誉教授)
8. 飽和脂肪酸含量およびコレステロール含量分析法 ~食品表示の方法に準じて~
村山 真一((一財)日本食品分析センター)
9. 3-MCPD 脂肪酸エステル及びグリシドール脂肪酸エステルの新規間接試験法
宮崎 絹子(ハウス食品グループ本社(株))

基準油脂分析試験法 2013 年版(第1刷)正誤表:

2013 年版基準油脂分析試験法(第 1 刷)で以下の誤植等がありました。謹んでお詫びいたしますとともに、誠に恐縮に存じますが、お手元の試験法(第 1 刷)をご確認くださいようお願い申し上げます。

試験法コード	出現の頁, 項目名等	誤	正
共4- ₂₀₁₃	p.10, シート 3	HV, LV は表 2 の区分 <u>6</u> の式を・・	HV, LV は表 2 の区分 <u>II</u> の式を・・
2.5.4.2- ₂₀₁₃	p.1, 3.4 分光光度計	波長 400~500 <u>mm</u> で測定でき・・	波長 400~500 <u>nm</u> で測定でき・・
2.6.3.7- ₂₀₁₃	p.3, 7.検量線の作成	ヒ素標準液 0~10 μ g	ヒ素標準液 0~10 μ L
参 1.4- ₂₀₁₃	p.1, 5.方法 表 1	50 <u>以下</u>	50 <u>以上</u>
参 1.25- ₂₀₁₃	p.2, 備考① 4 行目	アニリン 5 <u>m</u>	アニリン 5 <u>mL</u>
参 1.25- ₂₀₁₃	p.2, 備考① 6 行目	微紅色が 30 <u>g</u> 続いた・・	微紅色が 30 <u>s</u> 続いた・・
参 1.26- ₂₀₁₃	p.2, 備考① 4 行目	アニリン 5 <u>m</u>	アニリン 5 <u>mL</u>
参 1.26- ₂₀₁₃	p.2, 備考① 6 行目	微紅色が 30 <u>g</u> 続いた・・	微紅色が 30 <u>s</u> 続いた・・

連絡先:

基準油脂分析試験法にとりあげたい試験法や、新規試験法制定のための合同実験への参加機関を募っています。皆様のご意見、ご希望やご応募をお待ちしております。

また、基準油脂分析試験法及び規格試験法委員会へのお問合せおよび質問は、下記の日本油化学会事務局宛にお願いいたします。

日本油化学会事務局	
E-Mail	yukagaku@jocs-office.or.jp
Tel	03-3271-7463
Fax	03-3271-7464
住所	〒103-0027 東京都中央区日本橋3-13-11油脂工業会館7F